

2024.10.27 タウンミーティング まとめ

1. テーマ

新しい総合計画のビジョンとして掲げている「新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインとまちなみの整備（以下、都市基盤）」「多様性を基礎とする防災対策とセーフティネットの構築（以下、防災・安全）」の2つを中心に意見を出し合いました。

2. ビジョン「新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインとまちなみの整備」に対する主な意見

1. コミュニティセンターの活性化
 - 拠点として機能するように、簡単な役場手続きができる環境づくりや、イベントが開催できる場として活用すると良い。
 2. 公園の整備・活用
 - 大・小ささまざまな公園があるが、「ボール遊びができる程度の中規模の公園が複数あると良い」
 - 遊具やアスレチック設備が少ない。もう少し自由度を高めたり、多彩な遊具を整備するとにぎわいのきっかけになるのでは。
 - 駐車場不足、公園利用ルールが厳しすぎるのかも。焼き芋の販売など、小さなイベントができる余地を増やしてほしい。
 3. 公共施設や街並みの“映え”を意識
 - インスタ映えするスポットを一部でも設けると若い世代や子どもの利用が増えるのでは。
 - 例) 石川県の巨大モニュメントなど。壁画やアートを取り入れるのも一考。
 4. コンビニなどの商業施設誘致
 - 人口の少ない地域には日常の買い物拠点が乏しく、夜間も暗くなる。コンビニを設ければ、多少は人が集まる機会にもなる。
 5. 農業体験・移住施策
 - 農業がさかんな地域が多く、田植えや芋掘りなど体験イベントを企画できると良い。
 - 移住希望者に対し、最初は駅周辺の住まいで生活感をつかんでもらい、その後に少し離れた場所へ移り住むなどのステップを設けてもよい。
 6. 役場の利用しやすさ・にぎわいの仕掛け
 - 開庁時間が短い印象があり、働く世代は休暇を取らないと役場に行けない場合が多い。
 - コミセンや公共施設に意見箱を設置し、デジタル手段だけでなく紙ベースの声も拾えるようにする。
-

村長のコメント(都市基盤に関する部分)

- 駅周辺に人が集まりやすいのは事実だが、村内全域のバランスも考慮しながら拠点や施設を整備していきたい。
- 公園は住民の憩いの場として整備してきたが、近年は来訪者が増え、結果的に駐車場不足などの課題が生じている。
- コミュニティセンターの活用: 壁に絵を描くなど、アートや交流促進の取組みも良い。有効活用を考えていきたい。

3. ビジョン「多様性を基礎とする防災対策と心理的安全性を高めるセーフティネットの構築」に対する主な意見

1. 原子力・自然災害双方の防災
 - 原子力防災は東海村で特に重要。いざという時に正しく行動してもらえるよう、普段からの意識づけが必要。
 - 自然災害の激甚化もあり、避難情報・場所の周知をもっとわかりやすくする工夫が大切。
2. 地域コミュニティの力が防災力につながる
 - 助け合いの精神が希薄になりつつあるとの声もあり、普段からの「にぎわい」があれば、防災・防犯面での連携もしやすい。
 - ただし、個人情報の取り扱いに注意が必要で、「監視されている」と感じる人もいる。バランスが課題。
3. 情報共有の方法・インフラ
 - 回覧板や広報誌はあるが、どこまで情報が行き渡っているか疑問。
 - LINEなどSNS活用を増やす自治体もあるので、災害時の給水ポイントなどを含め、日頃からの告知で活用してはどうか。
 - 防災無線がマンションなどでは聞こえにくい問題や、いざという時の連絡手段に不安を感じる声がある。
4. 治安・防犯面への不安
 - 東海村には警察署がなく、事件・事故対応に時間がかかる場合がある。
 - 夜間の街灯不足を感じる人もいる。暗い道が多いと犯罪リスク・不安感が高まる。
 - ソーラーライトの導入や外灯の設置など、地域と連携した防犯対策が大切では。
5. 防災備蓄・物資の活用
 - 3日分の備蓄を各家庭で求めているが、住民が切迫感を持っているかは疑問。
 - さつまいも等は保存食になり得るので、農業と結びつけた備蓄プランも発想として面白い。

村長のコメント(防災・安全に関する部分)

- 防災や備蓄、情報伝達については、広報などで伝えているが届いていない実情もあり、新たな周知方法を検討したい。
- 防犯灯は地域の要望を受けて設置しているが、デザインや色合いも含めて、今後の整備を考えていきたい。
- 地域の助け合いは大切だが、一方でわずらわしさを感じる人もいる。新しい発想や技術の活用で「ゆるやかなつながり」をどう形成していくか模索する必要がある。

4. まとめ

- 都市基盤の整備と防災・セーフティネットの2つは、単独ではなく相互に関係する課題。
- 普段から公園やコミセンなどで集えるようにし、住民同士が交流する環境を整えることが、災害時や防犯対策にもつながる。
- 公園や公共施設を“映え”スポットやイベント会場として活用する発想、移住者支援策の提案、LINEやSNSでの情報発信強化など、多様なアイデアが出た。
- 村長からは、駅周辺の利便性と村内全域のバランス、既存施設のさらなる有効活用、防災情報や防犯灯に関する取り組み強化などに触れられた。